

外科手術調査2006

06年11月1日～07年3月31日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年4月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年4月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

症例票

[術式名：人工股関節置換術]

術者情報	「主たる術者」の人工股関節置換術の術者経験数【択一】	50例未満
		50～100例未満
		100～500例未満
		500例以上
「手術チームの実施責任者」の人工股関節置換術の術者経験数（「手術チームの責任者」とは、手洗いして手術に参加していた医師のうち、主たる術者の指導もしくは手術進行時の最終意思決定権を有していた医師を指す。）【択一】	50例未満	
	50～100例未満	
	100～500例未満	
	500例以上	
「主たる術者」と「手術チームの実施責任者」は異なるか【択一】	同一	
	異なる	
術前情報	患者の手術時年齢【数値記入】	()歳
	性別【択一】	男
		女
	身長【数値記入】	()cm
	体重【数値記入】	()kg
	基礎疾患【択一】	変形性股関節症
		大腿骨頭壊死
		関節リウマチ
		大腿骨頸部骨折
		その他
	骨粗鬆症の有無【択一】 （*骨粗鬆症の診断基準にしたがう）	なし
		あり
	ステロイド服用歴【択一】	なし
		あり・現在は服用していない
		あり・現在も服用中
	高血圧症【択一】	なし
あり		
糖尿病の有無【択一】	なし	
	あり・無治療	
	あり・食事療法等のみ、または経口糖尿病薬治療中	
	あり・インスリン注射使用者	
慢性閉塞性呼吸器疾患の有無【択一】	なし	
	あり	
脳血管障害の既往【択一】	なし	
	あり	
心疾患の有無【択一】	なし	
	あり	

手術情報	初回・再手術の別【択一】	初回手術
		再手術(前回、骨切り術)
		再手術(前回、人工関節置換術)
	患側【択一】	左
		右
		両側同時手術の左
		両側同時手術の右
	術式【択一】	conventional THA
		MIS one incision THA
		MIS two incisionTHA
	コンピューターナビゲーションの併用【択一】	なし
		あり
	人工股関節の摺動面の材質【択一】	金属-ポリエチレン
		金属-金属
		セラミック-ポリエチレン
		セラミック-セラミック
	人工股関節固定法【択一】 (大腿骨ステム)	セメントッド
		セメントレス
	人工股関節固定法【択一】 (白蓋形成用カップ)	セメントッド
		セメントレス
	骨移植の有無【択一】	なし
		あり
	麻酔法(複数選択可)	脊椎麻酔
		硬膜外麻酔
		全身麻酔
		その他
	手術時間【数値記入】	()時間()分
術中出血量【数値記入】	()ml	
輸血【択一】	なし	
	自己血(貯血式または回収式)	
	同種血	
術中骨折【択一】	なし	
	あり(処置あり)	
	あり(処置なし)	
術中の神経血管損傷【択一】	なし	
	あり	
手術実施年月日【数値記入】	年 月 日	

術後情報	日整会股関節治療成績判定基準 (JOAスコア)【数値記入】	術前:()点
		術後:()点 (判定年月日 年 月 日)
	早期合併症(術後1ヶ月未満)【択一】 術後創感染 (創の遷延治療を含む)	なし
		あり
	脱臼【択一】	なし
		あり
	インプラント感染【択一】	なし
		あり
	術後肺炎【択一】	なし
		あり
	DVTまたは肺塞栓症【択一】	なし
		あり
	その他、術前に存在しなかった 非可逆的な障害の有無【択一】	なし
		あり(障害の種類:)
	後期合併症(術後1ヶ月以上)【択一】 loosening	なし
		あり
	インプラント破損【択一】	なし
		あり
	脱臼【択一】	なし
		あり
	インプラント感染【択一】	なし
		あり
	クリニカルパス使用の有無【択一】	なし
		あり
	手術日から退院日(または07年4月30日)までの経過【数値記入】	車椅子移動の開始:術後()病日
		歩行訓練の開始:術後()病日
退院:術後()病日		
転帰【択一】	治癒退院	
	軽快退院	
	転院	
	転科	
	死亡	
予定外の再入院の有無【択一】	なし	
	あり	

(4) 日本脳神経外科学会

脳外科手術調査2006

医療機関票

*複数の異なる診療科・講座で個別に実施している場合には、別の医療機関として別々に回答してください。

都道府県		
医療機関名		
回答診療科名または講座名など		
当該科(講座)での年間の開頭手術件数		件
当該科(講座)での年間の脳動脈瘤クリッピング手術件数		件
当該科(講座)での年間の脳動脈瘤コイルリング手術件数		件
上記集計期間	H17 年度	
回答者氏名		
回答者電子メールアドレス(問い合わせ用)		

※データ解析時には医療機関名、診療科(講座)名、回答者情報は削除されます。

症例票

動脈瘤ごとに縦方向にデータとしてください。症例ごとではありません。複数の動脈瘤を持つ症例には同じ症例番号を入れてください。また、一度に複数のクリッピングを行った場合は”同時に処置した動脈瘤番号”の項目に動脈瘤番号を記入してください。3つ同時の場合は、最も若い番号を記入してください。

症例番号	お手元に参照表を保存してください			
多発動脈瘤？個数(総数)	個			
動脈瘤番号	症例内の番号で主たる4個以内			
手術区分	a. 当該部位の初回手術 b. 待期的分割手術の2度目以降 c. 予期しない合併症による再手術			
同時処置した動脈瘤番号	複数の場合は若い番号を一つ記載			
動脈瘤の部位	IC:内頸動脈 MC:中大脳動脈 AC:前大脳動脈 VA:椎骨動脈 E:その他			
動脈瘤のサイズ	a. 5mm 未満 b. 5mm 以上 10mm 未満 c. 10mm 以上 15mm 未満 d. 15mm 以上 20mm 未満 e. 20mm 以上			
動脈瘤の側	a. 左 b. 右 c. 正中			
実施術式	a. 開頭クリッピング b. 血管内治療(コイルリング)			
術中破裂の有無	a. なし b. あり			
実施年月	記入例(2006/01)			
手術時間	分			
術中出血量	ml			
術後頭蓋内出血	a. なし b. あり			
術後の脳梗塞	a. なし b. あり			
術後の水頭症	a. なし b. あり			
術後の細菌性髄膜炎	a. なし b. あり			
術後の肺塞栓	a. なし b. あり			
退院日	記入例(2006/01/01)			
手術日から退院までの日数	日(自動)	0	0	0

退院(転科・転院を含む)の時点での modified Rankin Scale	0. 全く症状なし 1. 何らかの症状はあるが障害はない: 通常の仕事や活動は全て行える 2. 軽微な障害: これまでの活動の全てではできないが身のまわりのことは援助などでできる 3. 中等度の障害: 何らかの援助を要するが援助なしで歩行できる 4. 中等度から重度の障害: 援助なしでは歩行できず, 身のまわりのこともできない			
患者の手術時年齢	歳			
患者の性別	a. 男 b. 女			
術前の糖尿病の有無	a. なし b. あり・無治療 c. あり・食事療法等のみ、または経口糖尿病薬治療中 d. あり・インスリン注射使用者 e. 不明			
術前的高血圧の有無	a. なし b. あり c. 不明			
術前の慢性閉塞性肺疾患(COPD)の有無	a. なし b. あり c. 不明			
術前の狭心症・心筋梗塞	a. なし b. あり c. 不明			
術前的高脂血症の有無	a. なし b. あり c. 不明			
脳血管障害の既往又は画像所見(含、無症候性脳梗塞)の有無	a. なし b. あり c. 不明			
動脈瘤の発見の契機	a. 頭痛やめまいなどの精査で発見 b. 脳ドック c. その他			
担当医	医師番号			
主たる術者	医師番号			
手術チームの実質責任者	医師番号			
以下はカラム B のみに記載				
回答者氏名				
回答者メールアドレス(連絡用)				
医療機関名				

(5) 日本外科学会

外科手術調査2006 医療機関票

* 複数の異なる診療科・講座で個別に実施している場合には、別の医療機関として別々に回答してください。

都道府県		
医療機関名		
回答診療科名または講座名など		
当該科(講座)での 年間手術件数	消化器手術・総件数	件
	膵頭十二指腸切除術	件
	食道癌における食道(亜)全摘術	件
	結腸癌における腹腔鏡下結腸切除術	件
	直腸癌における直腸切除術/切断術	件
	乳腺悪性腫瘍における根治手術	件
上記集計期間(どちらかを選択)		H17.4~H18.3 / H17.1~H17.12
回答者氏名		
回答者電子メールアドレス(問い合わせ用)		

外科手術調査2006

症例票

06年11月1日～07年2月28日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年3月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年3月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

[術式名:食道癌における食道(亜)全摘術]

術者情報	主たる術者のこの術式の術者としての総経験数のランク	a. 20例未満 b. 20～50例未満 c. 50～100例未満 d. 100例以上
	手術チームの実施責任者の、この術式の術者としての総経験数のランク	a. 20例未満 b. 20～50例未満 c. 50～100例未満 d. 100例以上
	主たる術者と手術チームの実施責任者は異なるか	同一 異なる
術前情報	患者の手術時年齢	()歳
	患者の性別	男
		女
	術前の放射線治療の有無	なし
		あり 線量()Gy
	術前の化学治療の有無	なし
		あり
	癌の部位	頸部
		胸部上部
		胸部中部
胸部下部		
食道胃接合部		
臨床ステージ (食道癌取扱い規約)	0	
	I	
	II	
	III	
	IV	
手術情報	実施手術	頸部、胸部、腹部の操作によるもの
		胸部、腹部の操作によるもの
		腹部の操作によるもの
		その他
	再建経路	後縦隔(胸腔内を含む)
		胸壁前
		胸壁後
	開胸	右開胸
		左開胸
		鏡視下手術
開胸なし		
手術時間	()時間()分	
術中出血量	()ml *術中の胸腔ドレーン出血を含む	
手術実施年月日	年 月 日(西暦)	

術後情報	術後の放射線治療の有無	なし
		あり 線量()Gy
	術後の化学治療の有無	なし
		あり
	再開胸止血操作の有無	なし
		あり
	縫合不全	なし
		あり
	術後のイレウス症状の有無	なし
		あり
	退院時(または07年3月30日)の転帰	生存退院
		死亡退院
		07年3月30日現在入院中
	上記生存時、術前に存在しなかった非可逆的な障害の有無	なし
		あり(障害の種類:)
	退院年月日	年 月 日(西暦)

外科手術調査2006

症例票

06年11月1日～07年2月28日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年3月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年3月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

[膵頭十二指腸切除術]

* 原疾患は悪性腫瘍および良性疾患の双方を含む

術者情報	主たる術者のこの術式の術者としての総経験数のランク	a. 10例未満 b. 10～20例未満 c. 20～50例未満 d. 50例以上
	手術チームの実施責任者の、この術式の術者としての総経験数のランク	a. 10例未満 b. 10～20例未満 c. 20～50例未満 d. 50例以上
	主たる術者と手術チームの実施責任者は異なるか	同一 異なる
術前情報	患者の手術時年齢	()歳
	患者の性別	男
		女
	術前の糖尿病の有無	なし
		あり・無治療
		あり・食事療法等のみ、または経口糖尿病薬治療中
	原疾患	膵頭部癌、
		胆管癌
		十二指腸乳頭部癌
		良性疾患(良性腫瘍、慢性膵炎、外傷など)
臨床ステージ(癌の場合)	I	
	II	
	III	
	IV	
手術情報	実施手術(複数選択)	幽門輪温存
		大動脈周囲リンパ節郭清
		門脈合併切除
	手術時間	()時間()分
術中出血量	()ml	
手術実施年月日	年 月 日(西暦)	

術後情報	術後の化学療法の有無	なし
		あり
	術後の胆管炎	なし
		あり
	縫合不全	なし
		あり
	瘵液漏	なし
		あり
	術後のイレウス症状の有無	なし
		あり
	退院時(または07年3月30日)の転帰	生存退院
		死亡退院
		07年3月30日現在入院中
	上記生存時、術前に存在しなかった非可逆的な障害の有無	なし
あり(障害の種類:)		
退院年月日	年 月 日(西暦)	

「主たる術者」とは、当該手術において最も重要な手技を実行した者である。

「手術チームの責任者」とは、当該手術に手洗いして参加し、当該手術の方針や進行に関する意思決定を下した者である。したがって、「主たる術者」とは必ずしも一致しない。

外科手術調査2006

症例票

06年11月1日～07年2月28日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年3月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年3月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

[術式名: 結腸癌における腹腔鏡下結腸切除術]

術者情報	主たる術者のこの術式の術者としての総経験数のランク	a. 30例未満 b. 30～100例未満 c. 100～200例未満 d. 200例以上
	手術チームの実施責任者の、この術式の術者としての総経験数のランク	a. 30例未満 b. 30～100例未満 c. 100～200例未満 d. 200例以上
	主たる術者と手術チームの実施責任者は異なるか	同一 異なる
術前情報	再手術区分	a. 当該部位の腫瘍切除に関する初回手術
		b. 待期的分割手術の2度目以降
		c. 予期しない閉塞や合併症による再手術
	患者の手術時年齢	()歳
	患者の性別	男
		女
	癌の部位	盲腸
		上行結腸
		横行結腸
		下行結腸
臨床ステージ	S状結腸	
	0	
	I	
	II	
	III	
手術情報	実施手術	結腸部分切除
		回盲部切除
		S状結腸切除
		結腸右半切除
		結腸左半切除
		結腸全摘
	手術時間	()時間()分
術中出血量	()ml	
手術実施年月日	年 月 日(西暦)	

術後情報	術後の化学療法の有無	なし
		あり
	縫合不全の有無	なし
		あり
	術後のイレウス症状の有無	なし
		あり
	退院時(または07年3月30日)の転帰	生存退院
		死亡退院
		07年3月30日現在入院中
	上記生存時、術前に存在しなかった非可逆的な障害の有無	なし
		あり(障害の種類:)
	退院年月日	年 月 日(西暦)

外科手術調査2006

症例票

06年11月1日～07年2月28日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年3月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年3月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

[術式名:直腸癌における直腸切除術/切断術]

術者情報	主たる術者のこの術式の術者としての総経験数のランク	a. 50例未満 b. 50～100例未満 c. 100～500例未満 d. 500例以上
	手術チームの実施責任者の、この術式の術者としての総経験数のランク	a. 50例未満 b. 50～100例未満 c. 100～500例未満 d. 500例以上
	主たる術者と手術チームの実施責任者は異なるか	同一 異なる
術前情報	再手術区分	a. 当該部位の腫瘍切除に関する初回手術 b. 待期的分割手術の2度目以降 c. 予期しない閉塞や合併症による再手術
	患者の手術時年齢	()歳
	患者の性別	男 女
	癌の部位	RS
		Ra
		Rb
	臨床ステージ	0
		I
		II
		III IV
手術情報	実施手術	高位前方切除術 低位前方切除術 Hartmann手術 直腸切断術(Miles)
	手術時間	()時間()分
	術中出血量	()ml
	手術実施年月日	年 月 日(西暦)

外科手術調査2006

症例票

06年11月1日～07年2月28日の期間に、当該医療機関でその手術を受けた患者を調査対象とし、症例票の作成は06年11月1日～07年3月30日の期間に退院（死亡・転院・転科を含む）した患者の退院時および、07年3月30日時点で入院中の患者については同日時点で行うものとする。

[術式名:乳腺悪性腫瘍における根治手術]

術者情報	主たる術者のこの術式の術者としての総経験数のランク	a. 50例未満 b. 50～100例未満 c. 100～500例未満 d. 500例以上
	手術チームの実施責任者の、この術式の術者としての総経験数のランク	a. 50例未満 b. 50～100例未満 c. 100～500例未満 d. 500例以上
	主たる術者と手術チームの実施責任者は異なるか	同一 異なる
術前情報	患者の手術時年齢	()歳
	患者の性別	女
		男
	癌の部位	右
		左
		両側
	臨床ステージ	0
		I
		IIa
		IIb
IIIa		
IIIb		
IV		
手術情報	実施手術	乳房温存手術
		胸筋温存乳房切除術 (Patey, Auchincloss)
		胸筋合併乳房切除術 (Halsted)
	センチネルリンパ節生検の実施	なし
		あり
	手術時間	()時間()分
術中出血量	()ml	
手術実施年月日	年 月 日 (西暦)	

術後情報	術後の化学療法の有無	なし
		あり
	術後の内分泌療法の有無	なし
		あり
	術後の放射線療法の有無	なし
		あり
	退院時(または07年3月30日)の転帰	生存退院
		死亡退院
		07年3月30日現在入院中
	上記生存時、術前に存在しなかった非可逆的な障害の有無	なし
		あり(障害の種類:)
	退院年月日	年 月 日(西暦)

(6)日本胸部外科学会

医療機関票

都道府県	
医療機関名	
回答診療科名または講座名など	
回答者氏名	
回答者電子メールアドレス(問合用)	



外科手術調査2007【術式名：冠動バイパス手術】
症例票

※1症例/1行で記入してください

はプルダウンから選択します 項目タイトルのコメントも(セル右上の▼印)一読お願いします

No.	術者情報			術前情報																			
	「主たる術者」のバイパス手術の術者数	「手術チームの実施責任者」の術者数	「主たる術者」と「手術チームの実施責任者」は異なるか？	緊急区分	再手術区分	患者の手術時年齢	患者の性別	慢性閉塞性呼吸器疾患の有無	術前の動脈血中の酸素飽和度の有無	術前血中クレアチニン値 >2.0mg/dl	術前の透析治療の有無	脳血管障害の既往	ASO/AAAの既往	術前の重症心不全の有無	術前左室造影におけるLVEF値(%)	心エコーの他にLVEF40%以下の低下機能の有無	術前評価における病変の数	LMT病変の有無	急性心筋梗塞の有無	不安定狭心症の有無	術前の補助循環施行		
1																							
2																							
3																							
4																							
5																							
6																							
7																							
8																							
9																							
10																							
11																							
12																							
13																							
14																							
15																							
16																							
17																							
18																							

